

healthycolumn
健康コラム

保健 医療 介護 福祉

●飯南病院 ☎72-0221 ●来島診療所 ☎76-2309 ●保健福祉センター ☎72-1770

**飯南病院
便り**



副院長 三上隆浩

「飯南町に医療があるということ」 ～歴史的背景から～

1920年代以前の医療における「保険」は、民間と官業の共済組合により提供され、加入は任意で、給付金額や掛金率も加入者で異なるものでした。1956年の時点では、日本の人口の約3分の1が医療保険に未加入の状態であったようです。1958年の国民健康保険法改正で、全ての市町村における地域保険制度の設立が義務化され、1961年に「国民皆保険」が達成されました。

1972年からの高齢者医療費無料化は、財源の持続可能性に対する懸念が広がり、1982年に老人保健法が制定され、高齢者医療自己負担ゼロの時代を終えました。

その後の高齢化の進展で、1997年に介護保険法が成立。2006年に75歳以上の後期高齢者を対象の医

療保険制度が設立され、2015年には、都道府県が、国民健康保険の財政運営と医療提供体制で大きな権限と責任を持つようになり、現在の形になっています。

さて、1961年に制度的には「国民皆保険」が達成されますが、「保険あって医療なし」の状況解消に向けて、当時国民健康保険を運営していた市町村が、地域住民に医療を提供するために、全国津々浦々（特に中山間地域、離島、島嶼部）で、国民健康保険直営診療施設（国保直診）を設置しました。これが、現在の飯南病院、来島診療所、各出張診療所につながっています。

国保直診は、昭和30年代には全国で、診療所は約2,700施設、病院は約500施設ありましたが、市町村合併や人口減少と経営上の問題から、診療所は約500施設、病院は270施設まで減少しています。

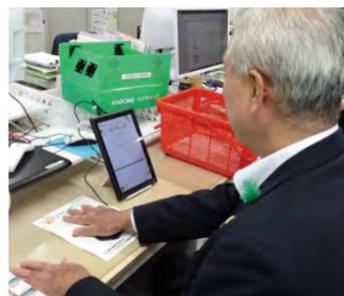
これから全国的に進む少子高齢化と人口減少の社会状況において、飯南町での医療のあり方を生活と健康づくりの視点から、町や飯南病院はもちろん、町全体で一緒に考えていく必要があります。

**保健福祉センター
便り**

もしかしたら・・・野菜摂取が不足しているのは、働き盛りの年代かもしれません

地域との共創で「野菜摂取不足ゼロ」を目指すカゴメ(株)の取組に賛同し、野菜の摂取量を測定するベジチェックをお借りし、町職員が「ベジチェック」を体験してみました。

「思ったような数値が出なかったな」、「毎日野菜は気をつけて食べているから、十分な数値が出て安心した」など、人それぞれの意見がありました。



塚原町長も手をセンサーに乗せて、野菜摂取量を計測

飯南町役場の平均値「4.71」

目標の「7」にはほど遠い結果でした。最高値が「8.8!」上限は「12」まであります。ベジチェックの値は1日とか1食野菜をたくさんとっても上がりません。習慣化することが必要です。

これから数値をレベルアップするために、食習慣を変えていこう!という決意を葉っぱに書いてもらい、全体で「やる気の木」ができあがりました。

町職員も数値改善に向けて努力していきます。町民の皆さんも自身の食生活を見直し、野菜を食べることを意識して習慣化できるようにしていきましょう。



町職員の決意を書いた「やる気の木」



**脱炭素チャレンジ
インフォメーション**

vol.1

本町は、令和5年3月に脱炭素のまち宣言を行いました。町民の皆さんにも取り組んでいただけるよう、定期的に情報をお届けします。

「薪ストーブ」を活用しませんか?

薪ストーブは、森林資源の有効活用、化石燃料を使用しないことから、二酸化炭素削減効果など、環境に優しい暖房設備として注目されています。

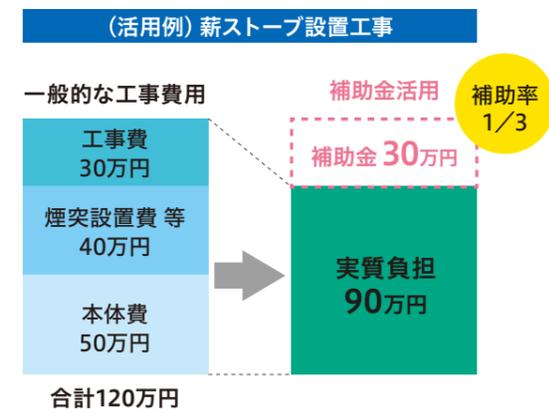
石油ストーブを薪ストーブに替えることで、年間25メートルプール1/3杯分の二酸化炭素が削減でき、灯油136リットル分が削減できます。

地球温暖化を防止しながら、豊かで持続可能な社会をつくっていくため、薪ストーブのある生活を始めてみませんか。

※使用方法を誤ると煙・ニオイが発生します。適切に使用してください。

【薪ストーブの設置助成】

- 対象者 町内に居住または、営業目的で所有(予定)する住宅に設置を考えている方
 - 補助金額 設置費用の1/3(上限:30万円)
 - 工事事業者 町内事業者
 - 申請〆切 11月29日
- ※予算がなくなり次第、受付を終了



※その他にも要件があります。申請を希望される人は、契約までにお問い合わせください。

問合せ
住民課 ☎76・2213

みんなでつくる! **笑顔あふれる飯南暮らし**

「笑顔あふれる飯南暮らし」をテーマに、各地域で取り組まれている活動を取り上げていきます。

第2回 子どもも大人も一緒に防災を考える「谷たんけん&防災ウォーキング」

谷地区集落支援員の澤田が谷地区の活動をレポート



■自主防災組織の活動
谷地区では、自主防災組織「防災たに」を組織し、防災計画づくり、研修会などを行っています。3月10日には「谷たんけん&防災ウォーキングin塩谷上」を開催。参加者は約30人で、地域の魅力を再発見しつつ、防災意識の向上を図りました。

■歩くことで見えること
グループ毎に案内役からハザードマップに基づく危険箇所や、昔の出来事などについて説明を聞きながら歩きます。実際に現地を確認し、配布された白地図に気づいたことを書き入れながら、歩くことで「実際に体験することで防災の重要性を再認識できた」との声も。

■防災で大切なのは住民同士の支え合い
歩いて終わりではなく、ウォーキング後に昼食を兼ねて非常食の試食、避難経路の確認、防災に関するクイズも。防災意識を高める機会をつくります。普段は車で通る道と一緒に歩いたり、クイズを考えたりして、住民同士の交流を深めます。今後も継続的に開催し、防災意識の向上を目指します。



普段通る道にも危険箇所が

ここがポイント!
●子どもも大人も一緒に地域を学ぶ「まちあるき」は地域づくりに大切な活動です。
●誰もが関心のある「防災」を切り口に住民同士が交流する場をつくりだす。